

社会資本総合整備計画 事後評価書

ナラケン イコマシ
奈良県 生駒市

平成31年3月29日

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成 年 月 日

計画の名称	1 生駒市の中心市街地における都市拠点形成によるにぎわいと魅力あるまちづくり			
計画の期間	平成22年度～平成26年度(5年間)	交付対象	生駒市	
計画の目標				

生駒市は奈良県北部の玄関口であり、生駒市の中心市街地に位置する生駒駅は、大阪と奈良・関西文化学術研究都市とを結ぶ重要な交通結節点である。生駒駅南口においては、昭和58年に奈良県下初の市街地再開発事業を、また、生駒駅北口においては、平成9年、平成17年にそれぞれ市街地再開発事業を施行するなど、都市基盤整備をこれまで行ってきたところである。このような中、再開発事業による都市機能の更新や花や緑のあふれる魅力ある都市空間の整備など、中心市街地の集客を図る環境整備を推進し、快適で魅力ある中心市街地の再生を目指す。

計画の成果目標(定量的指標)

- ・中心市街地における主要駅の乗降者増加率 現在(H22)から約1割増(H26)

定量的指標の定義及び算定式

近鉄生駒駅におけるH22年度の年間乗降者数を測定して、その値を100%としたときのH26年度の増加率を算出する。
 $H26\text{乗降者数増加率}(\%) = H26\text{年度乗降者数}(\text{人}) / H22\text{年度乗降者数}(\text{人})$

定量的指標の現況値及び目標値			備考
当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)	
100%	100%	110%	

全体事業費	合計 (A+B+C)	2,804 百万円	A	2,410 百万円	B	0 百万円	C	394 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	14.1%
-------	---------------	-----------	---	-----------	---	-------	---	---------	---------------------------	-------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業者が隔年で実施している乗降者数調査結果を活用 ・なお、年間乗車人数の増加についても参考とする。 	事前評価：平成22年11月9日 事後評価：平成28年4月30日 公表の方法 生駒市ホームページにより公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-A-1	再開発	一般	生駒市	間接	生駒駅北口第二地区市街地再開発組合	生駒駅北口第二地区市街地再開発事業	住宅、商業、公益施設、等 0.8ha	生駒市						1,928	
1-A-2	街路	一般	生駒市	間接	生駒駅北口第二地区市街地再開発組合	生駒駅北口第二地区((都)松ヶ丘通り線外2線)	再開発 A=0.8ha	生駒市						394	
1-A-3	道路	一般	生駒市	直接	生駒市	駅前東線	(市道・交安) A=0.3ha	生駒市						32	
1-A-4	道路	一般	生駒市	直接	生駒市	宝山寺参詣線	(市道・交安) L=200m	生駒市						56	
合計													2,410		

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
合計													0		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接/間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	活動支援	一般	生駒市	直接	生駒市	生駒駅前にぎわい創出事業	官民協働により行うにぎわい創出事業の活動支援	生駒市						5	
1-C-3	施設整備	一般	生駒市	直接	生駒市	歩行者用通路等の整備	回遊性の向上のための施設整備	生駒市						199	
1-C-4	施設整備	一般	生駒市	直接	生駒市	世代間交流施設整備事業	駅前図書室、市民ギャラリーの施設整備	生駒市						72	
1-C-5	施設整備	一般	生駒市	直接	生駒市	生涯学習活動拠点整備事業	既存社会教育施設を改修し、生涯学習拠点施設として整備する	生駒市						100	
1-C-6	施設整備	一般	生駒市	間接	生駒駅北口第二地区市街地再開発組合	生駒駅北口第二地区内景観形成事業	再開発区域内街路における景観形成のための施設整備	生駒市						16	
1-C-7	施設整備	一般	生駒市	直接	生駒市	情報掲示板の設置	市政等の情報を発信するための施設整備	生駒市						2	
合計													394		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業(1-A-1)の完了後、再開発地区内とその周辺地区において、官民協働によるにぎわい創出事業を実施する。	
1-C-3	生駒駅前北口第二地区((都)松ヶ丘通り線外2線)(1-A-2)で整備される公共空間と周辺地区との回遊性を図り、周辺商業施設と一体となつたにぎわいを創出する。	
1-C-4	生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業(1-A-1)の権利床を世代間交流施設として整備し、中心市街地における都市機能の集積を図る。	
1-C-5	生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業(1-A-1)に合わせ、既存公民館を生涯学習施設として改修整備を行うことで、教育、芸術、文化を発信する拠点の形成を図る。	
1-C-6	生駒駅前北口第二地区((都)松ヶ丘通り線外2線)(1-A-2)の整備される公共空間と一体となって、うるおいやにぎわいのある都市空間整備を行い、良好な景観形成を図る。	
1-C-7	生駒駅前北口第二地区市街地再開発事業(1-A-1)の整備に合わせて掲示板を設置し、市民団体等から活動内容の紹介やイベント情報を発信できるようにすることで、市民活動の推進を図る。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況										
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 各種交付対象事業の施行により、本市の玄関口としての中心市街地の魅力が向上した。 市街地再開発事業における商業公益施設等の整備により、中心市街地の集客力が向上している。 生駒駅前にぎわい創出事業によって、市民主体の各種イベントが企画実施され、中心市街地の集客力向上につながっている。 宝山寺参詣線の修復事業によって、地域の歴史や文化を感じさせる安全で人にやさしい道路空間が創出され、門前まちの観光振興と魅力の向上による集客力向上につながっている。 								
II 定量的指標の達成状況		<table border="1"> <tr> <td>指標①（鉄道駅乗降者数の増加率）</td> <td>最終目標値</td> <td>110%</td> <td rowspan="2">目標値と実績値に差が出た要因</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最終実績値</td> <td>102%</td> </tr> </table>	指標①（鉄道駅乗降者数の増加率）	最終目標値	110%	目標値と実績値に差が出た要因		最終実績値	102%	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の施設の老朽化等による魅力低下によって事業実施期間中に乗降者数の減少が進み、事前評価値を下回った。そのため、事業完了による効果が2%の増加に留まった。また、市街地再開発事業完了（商業公益施設等のオープン）に関する認知度向上に期間を要し、事業完了と同時に効果が即座に現れなかった。
指標①（鉄道駅乗降者数の増加率）	最終目標値	110%	目標値と実績値に差が出た要因							
	最終実績値	102%								
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> まちなか広場の創出により、市民主体の各種イベントが年間を通じて開催されるようになり、にぎわいと交流が生まれる拠点として定着。（事業完了前H25：27件⇒H27：121件（448%）） 駅前東線（駅前交通広場）の再整備により、円滑な公共交通の運行が確保され、利便性と安全性共に向上した。 都市基盤整備と魅力ある施設等の集積により、路線価が上昇した。（H22：225千円⇒H27：310千円（137.8%）） 世代間交流施設における図書の貸出人数が倍増した。（H22：58,234人⇒H27：117,541人（201.8%）） 歩行者専用道の整備により、回遊性の向上による周辺商業施設と一体的なにぎわいの創出と共に、歩車分離による歩行者の安全性が向上した。 宝山寺参詣線（石畳、石段）の老朽化を総合的に修復することで、沿道住民や観光客を含む利用者の安全性が向上した。 宝山寺参詣線の修復事業により、沿道店舗や周辺商業施設の活性化、門前まちの観光振興など、中心市街地の集客力と賑わいの創出につながっている。 								
3. 特記事項（今後の方針等）										
<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の継続的にぎわいと更なる魅力向上を図るため、市民主体で実施されるイベント等の取り組みに対し、継続的な支援を行う。 										

(参考図面)

